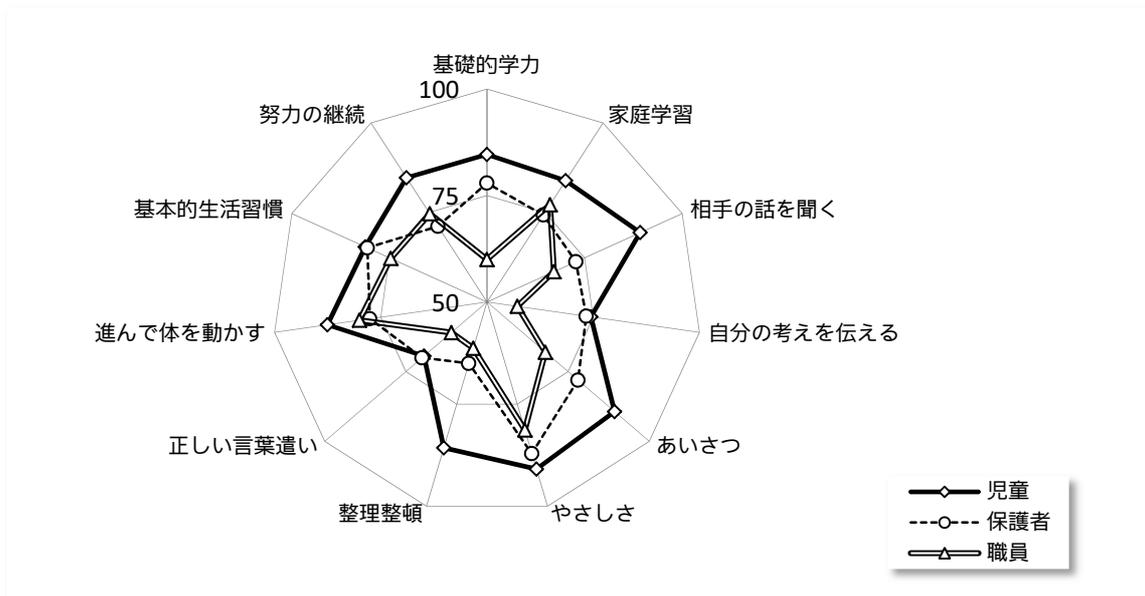


平成 26 年度
永盛小学校学校評価結果

平成 27 年 3 月 16 日

先日は、学校評価へのご協力、ありがとうございました。得られた結果と改善策をお伝えし、今後の学校経営に生かしていきたいと考えますので、よろしくお願いいたします。

I 全体的な傾向



グラフ 1 全体集計チャート

1. 児童の自己評価結果が高い

→ **自信を持って学校生活を送っている**

児童の、全項目の平均達成率は 83.7% であり、続いて、保護者の 75.2%、職員の 69.3% と続きます。グラフからも、大きく上回っていることがわかります。

これは、本校児童が、高い自己達成感を抱いていることの表れであり、自信を持って学校生活を送っている望ましい姿が見えてきます。

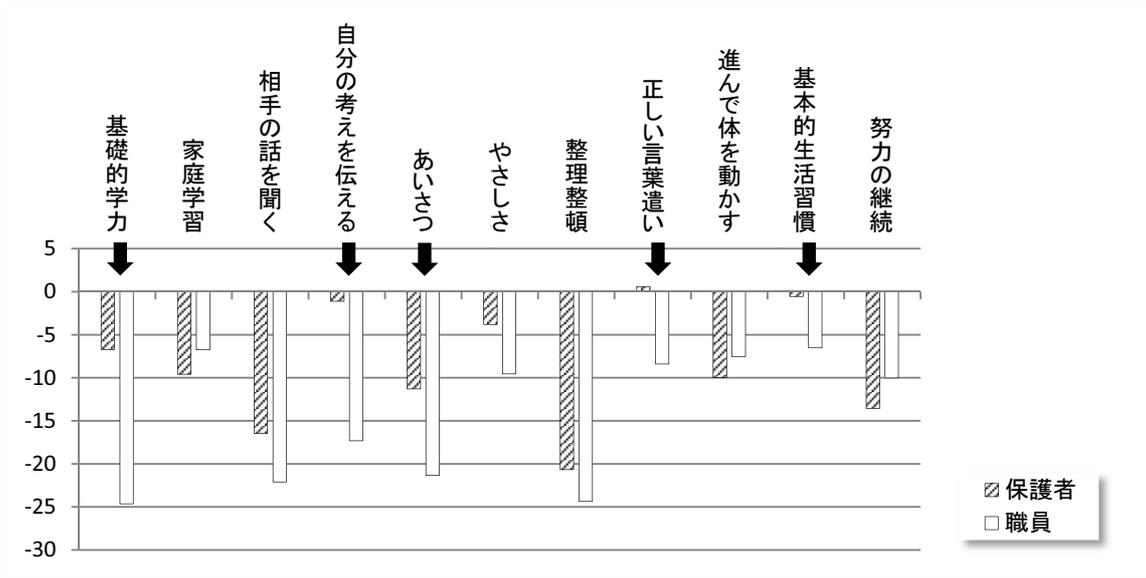
2. 児童と職員の項目ごとの判断傾向が似ている

→ **職員の指導と児童の努力が密着している**

グラフ 1 の概形をみると、児童はアサガオの葉の形をしており、一部項目を除いて、職員も同様の形を示していることがわかります。

これは、指導とその結果の間に矛盾が少ないことを示しています。日常的に指導している事柄に対して、児童が素直に努力をしているということがうかがえる結果です。

II 特徴的な傾向



グラフ2 児童の評価とのギャップ

1. 「基礎的学力」

児童と職員の間で、大きくギャップがあるのがこの項目です。

私たちは、この問題を、次のように考えてみました。

『児童が単に甘く自己評価をしているというのではなく、私たちの指導の中で目指す到達点が、児童との間でずれている可能性があるのではないだろうか。今回の結果からは、「もっとがんばりなさい。」という指導を受けて、「がんばっているよ！」と素直に期待に応えようとする児童の健気な姿が浮かんでくる。にもかかわらず、私たちは、まだまだ到達していないと捉えてしまっている。』

私たちは、その原因を、私たちが子どもたちに対して、到達目標や解決のための道筋を具体的に示す手だてが不足していたせいではないかと考えました。

一生懸命に努力をしている子どもたちに応え、客観的にも十分な学力を身に付けさせることができるように、具体的に、何をどのようにならば頑張るのかを明確に伝えながら指導していきたいと考えています。

→ **明確な指示で子どもの自己評価とのギャップを埋めます**

2. 「自分の考えを伝える」

保護者と職員との評価に大きく隔たりのある項目です。

保護者の皆さんは基本的に、ご家庭の中で生活する子どもたちの姿を中心に評価しています。しかし、私たちは、学校という大きな社会の中で子どもたちを見ています。

家族以外の多くの人が集う社会の中で、自分の考えを伝えていくことは容易ではありません。子どもたちの考えをよくわかっているが故に、先取りしてしまうことが多くなり、子どもたちが最後まで話すことができるように、ご家庭でもご指導いただければと思います。

→ **自分の考えを最後まできちんと伝えることができる訓練を**

3. 「あいさつ」

あいさつは、する側ではなく受け手の側の印象が大きく影響する行為です。自分ではあいさつをしているつもりなのに、相手がそう捉えていなければしなかったことと同じです。

学校でも、ご家庭でも、家族や友だち、学校の先生など、よく知っている相手に対しても、きちんと相手を意識して、自分が元気であることをきちんと伝えきることができるように、あいさつの練習を積み重ねていくことを指導していきましょう。

→ 知っている相手にも自分の気持ちを伝えるあいさつを

4. 「正しい言葉遣い」

この項目は、唯一、児童よりも、保護者の評価が上回った質問項目です。

当然、ご承知のことは思いますが、ここでは、「正しい≒美しい」という意味で「正しい」を用いています。この点を考えると、学校で聞こえてくる子どもたちの言葉は、まだまだ、正しいとは言えないものが多く感じられます。

敬語などを考えてしまうと、難しくして前へ進めなくなってしまうので、正しい言葉遣いをするための第一歩として、一つ、提案をさせていただきます。

べらんめえ口調でゆっくり話す人はいないはずです。そうです、話す速度が変われば、自然に、言葉遣いもかわるのです。

まずは、ゆっくり話すことを心がけてみてください。そうすれば、自然と、言葉遣いは美しく正しいものにかわっていくことと思います。

→ ゆっくり話すことを心がけて正しい言葉遣いへと

5. 「基本的生活習慣」

先日の学校保健委員会についてお伝えしたとおり、校医の先生方のお話では、健康であることは幸福につながるのだそうです。そして、その健康を土台の部分で支えるのは、小さい頃からの生活習慣。その基本となるのは睡眠時間。

テレビやゲームの時間を減らして、十分な睡眠時間が確保できるようにしてあげてください。

→ メディアに接する時間を減らして睡眠時間の確保を

III 総括

子どもたちにとっての先生は、周囲の大人全て。

私たちは、永盛小学校に関わる大人は、職員をはじめ、保護者の皆さんや地域の方々も皆、一つのチームであると考えています。

一人ひとりの大切ないのちをよりよく育むために、自分にできることは何かが、少し垣間見えてきた学校評価ではなかったかと思えます。

今回得られた考察と改善策をもとに、次年度も力一杯、永盛小の教育にあたっていきたいと思いますので、なにとぞ、これまで以上にご理解とご協力をお願いいたします。